

はじめに

学校で通常授業が行われているときはもちろんのこと、コロナ禍や大雪で臨時休業になろうと、教育活動は粛々と日々進行しています。そして着実に生徒達は成長していきます。今年度は、これまで誰も予想することのできなかつた事態となりましたが、改めて、学校の存在意義や授業の価値を問い直す機会となりました。これは、教職員だけでなく、生徒、保護者にとっても同じことだったと思います。

授業カリキュラムや学校行事の在り方を見直しながら実践研究を進めることは、決して簡単な営みではありませんでした。しかし、学校で共に学べることの喜びを感じながら、このプロセスで我々が合言葉のように意識したのは、今年度刷新した研究主題「Agency を育む学び～共に創るプロジェクト学習～」でした。

「この実践が本当に Agency を育てているのか」「教師だけでなく本当に生徒達と共に創っているのか」「この授業はプロジェクト学習と呼べるのか」ということを自問自答して進めてきたと言えるでしょう。職員会議の回数は昨年度よりかなり減少しましたが、研究会の回数は保持して、福井大学連合教職大学院の先生方を交えて、たくさんの議論を積み重ねました。この実践研究の成果は、11月に開催しました公開研究会での生徒達の姿と、この研究紀要に綴られている先生方の授業づくりの実践記録に表れています。

働き方改革の一環で、研究紀要を作成しない学校が増えてきています。しかし、本校では自身の実践を振り返り、次の学びをデザインする糧として全員が執筆しています。公開研究会の開催と研究紀要の編集は、これからも続けていって欲しいと願ってやみません。ゴールはまだ少し先にあるのですから。

終わりにになりましたが、本校の実践研究に日ごろよりご教示・ご示唆をいただいている福井市教育委員会、福井市中学校教育研究協議会、福井大学連合教職大学院の諸先生方に、深く感謝申し上げます。今後とも本校の教育にご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

令和3年3月

福井市安居中学校長 牧田 秀 昭